

IT ALL STARTED IN NEW ORLEANS... FOUNDING STORY OF RUTH'S CHRIS STEAK HOUSE

女性企業家・ルース女史の波乱万丈 創業ヒストリー

ルース・クリスを創業したのは、当時シングルマザーだったRuth Fertel（ルース・ファートル）。飲食業もステーキも知らないルースが、アメリカを代表するステーキハウス・ブランドを創り上げた、ドラマ溢れる歴史をご紹介します。

1965年5月 物語のはじまり — レストラン購入

二人の息子を大学へ進学させるため、資金が必要だと悟ったシングルマザーのルース・ファートルは、新聞に60席のステーキハウス「Chris Steak House」売却の広告を発見。店は前オーナーの下で6度も経営破綻をしていた上、自身にも飲食店経営の知識が皆無であるにも関わらず、銀行員、弁護士、友人らの忠告を無視し、自宅を抵当に入れて店を購入。「開店日が自分の誕生日（1927年2月5日）と同じ」と知った彼女は、それを天の導きだと受け取ったのでした。

女性が活躍する舞台

身長158cmの小柄な体格ながら、電動ノコギリを購入できるようになるまで、ルースは手鋸でショートロインを切り分けていたと言います。スタッフを「勤勉で信頼できる」シングルマザーで固めたクリス・ステーキハウスは、長年に渡ってニューオーリンズで唯一の女性ウェイトレスのみを擁する高級レストランでした。開店当初から、レストランは地元政治家だけでなく、アスリート、実業家、記者らを惹きつけ、シンガー「ファッツ・ドミノ」のような地元有名人も常連客に抱えていました。

1965年9月 災害～“ピンチに火を起こす人”という英雄譚

開店から4ヶ月後、巨大ハリケーン・ベッツィがニューオーリンズを直撃し、停電で食材が傷む危機に。ルースは全ての肉・食材をガスブロイラーで片っ端から焼き上げ、被災者や被災地の救助隊員に無償でステーキをふるまいました。結果的に、ファンや常連を増やすことにもなりました。

1976年 名前の謎が生まれた火事

レストランの新たな10年契約を締結した直後、火災により建物が全焼。近くにもう1軒物件を購入し、拡大営業を計画していた矢先の出来事でした。しかしわずか7日後に、彼女はレストランを数ブロック先のブロードストリート711番地に移転、160席に拡張して営業を再開します。

しかし旧オーナーとの契約上、「Chris Steak House」という店名が元の住所でしか使えないことが発覚。苦肉の策で自分の名前を足し、「Ruth's Chris Steak House /ルース・クリス・ステーキハウス」と命名しました。（後にフォーチュン誌に「舌を噛みそうな店名が、実は好きではなかった」とも語っています。）





1977年

フランチャイズ拡大し「アメリカンレストランのファーストレディ」に

最初のフランチャイズは創業から13年目、常連客のTJ・モーランによるバトンルージュ店。「食べて惚れ込んだ人だけが仲間になる」という自然増殖型で、その後20年間で急速に拡大、国内外に80以上の店舗を展開しました。ルースは起業家として数々の称賛を受け、「アメリカンレストランのファーストレディ」「ステーキの女帝」という異名を得ました。

2002年

彼女の遺産：教育へ注いだ情熱

生涯にわたり現場に立ち続けたルースは、70歳の誕生日を迎えた1997年には自ら42店舗を視察し「経営状態を嗅ぎ分けた」と言います。1999年に病に倒れると、イリノイ州シカゴのマディソン・ディアボーン・パートナーズにチェーンを売却。3年後の2002年、75歳で肺がんでこの世を去りました。

数学年飛び級をし、19歳で化学と物理学の優等学位を取得して大学卒業、大学医学部で研究所技師として働いていたこともある知的好奇心旺盛なルースは、教育の大切さを信じていました。生前から、数多くの子供たちの教育費を負担したり、起業を目指す女性への支援などを積極的に行ってきたルースの遺言で、ルース・U・ファーター財団が設立。幼稚園児から大学生までを対象としたプログラムを通じてルイジアナ州の教育を支援し、2006年のハリケーン・カトリーナ後には120万ドルを寄付しました。ルイジアナ州シボドーにあるニコルズ州立大学には、ルース・U・ファーター料理芸術センターも開設されています。

数々の困難を乗り越えて、ルースの不屈の精神と揺るぎない信念が、世界的ブランドの礎を築き上げました。彼女のホスピタリティは今も世界中の店舗に息づき、ルースの愛したステーキは多くのお客様に愛されています。

